

学校支援

平成30年 8月3日 NO.4

連絡先:北広島市教育委員会社会教育課内

TEL 372-3311(内線 4847)

学校支援コーディネーター

小西 稔 伊藤 登喜子

戦争体験講話

～平和への願いを込めて～

7月2日、緑ヶ丘小学校5、6年生を対象に「戦争体験講話」が総合的な学習の時間を使い、行われました。講師には、若葉町にお住いの三浦美江氏を招聘し、自らの戦争体験をもとに、休憩時間を取りながら、90分にわたり、お話をさせていただきました。今年で6回目を迎えます。初めに、ご自身の小学校1年生時代の学級写真を児童たちに見せ、当時の生活の様子を新聞記事、写真等で紹介してくれました。「兄の軍隊召集」「ぜいたくは敵だという時代の生活」「千人針」のお話など当時の様子を大変わかりやすく語られ、またその中で、「戦争の悲惨さ」「戦争の矛盾」「今、平和でいることの喜び」「二度と、戦争を繰り返してはならない」など、講師の想いが児童に伝わったことと思います。最後に「平和の歌」を全員で輪唱して終了しました。この後、双葉小、大曲東小、東部小で行われる予定です。



平和集会

～被爆者が語る～

7月2日、緑陽中学校で北海道被爆者協会大村一夫氏を講師に招聘し、「平和集会」に、全校生徒が参加して行われました。講師の大村氏は、4歳の時に広島で被爆されました。今回の集会の目的は「わたしの被爆体験が、あなた方が、今後、どのように生きていくかを考えていく上で、そのきっかけにして欲しい。」とのお話が冒頭ありました。

当時の話です。「原爆が投下された8月6日、朝食時、突然の爆風。町が消えた。空は真っ黒、私は、山の方に逃げた。数日後、自分の家にもどる。町が平に見えた。防空壕で何日間か過ごした。8月15日、玉音放送の日、大人が泣いていました。」大村氏は、昭和23年、小学校2年の時に札幌に転校、体調が悪く、微熱が続き、1年間休学をしました。小学校卒業の年に、「福竜丸事件」が起こり、マスコミは放射能について連日報道しました。自分の病気を意識した時であったそうです。

講演後の生徒からの質問で、これまで一番つらかったことはとの質問で、大村氏からは「命の保証が欲しかった」と語っていました。講演後、生徒の代表から「原爆の悲惨さ、平和の大切さを学びました」の挨拶がありました。

楽しい水泳学習!

～各小学校の水泳学習の様子です～

今年、水泳授業が始まった6月の中旬から下旬は、天候不順で寒い日が続きました。それでも関係者のご努力でプール温度も適温に保たれ、授業は当初の計画通り、進められています。

事前に、全小学校に講師と共に訪問させていただき、水泳学習を進めていく上での指導内容や安全管理について確認させていただきました。9月上旬まで水泳学習は続きますが、安全で、楽しい授業を進めていって欲しいものです。

西の里小3年



西部小1年



双葉小6年



大曲小1年



東部小3年



北の台小2年



緑ヶ丘小2年



大曲東小1年



着衣水泳学習のお知らせ
水泳学習終了後、東部小、西部小、大曲小で江別市水上安全赤十字奉仕団のご協力を得て、着衣水泳学習を実施する予定になっています。

こんな時 ご相談ください

- 「〇〇の学習をしたいので 実技指導をしてくれる人、お話をしてくれる人はいないかな」
- 「子どもたちの教育のために役立ちたい」

学校支援コーディネーター 伊藤 登喜子 小西 稔 TEL:372-3311(内線4847)